

## 軽米町百人委員会平成 28 年度第 1 回しごと部会議事録

○開催日時：平成 28 年 6 月 1 日（水）午後 7 時～午後 8 時

○開催場所：軽米町役場庁舎 3 階会議室

○出席者

委員：15 名中 8 名出席（高林昭子、中野武夫、円舘勝弘、田中祐典、紫葉貞子、下谷地忠一、竹林利弘、野林秀雄）

事務局：産業振興課	高田 小林(浩) 坂本 畑中
税務会計課	山田
地域整備課	新井田
再エネ推進室	平
総務課	日山 梅木 小笠原 山舘

○開会

（産業振興課長）皆さん、おばんでございます。お忙しい中、お疲れの中、ご出席いただきまして大変ありがとうございます。1 名ほどまだ本日参加することになってお見えになってませんが、百人委員会の今年の第 1 回しごと部会を開催させていただきます。皆さんのお手元の近くにマイクがあると思いますので、着座のままマイクでお話をお願いしたいと思います。本日の議題は、皆様に郵送で、今年の全体会の次第、協議内容、3 月にやりました百人委員会の全体会のしごと部会の報告の概要を送付しました。今日は百人委員会の今年の代表者会議の項目にありますけれども、今年の話し合いのテーマを絞る、これは去年の話し合いの中でも出てきましてけれども、しごと部会としてテーマを決めて、そのテーマに沿って何らかの提言をできればいいのかなと考えてました。私の方からもあとから説明しますが、皆様方からもご意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。最初に部会長さんからご挨拶をお願いします。

○部会長あいさつ

（部会長）おばんでございます。新年度に入って最初の部会ということですが、昨年いろいろ話し合ってみまして、しごと部会というのは大変な、範囲が広過ぎて何を考えたらいいいのかよくわからないということで、代表者の会議でも話しましたが、何かテーマを決めて、必ずこれだというものじゃなくても何か見つけ出せばということで進めていきたいと思っておりますので、皆さんからもいろんな意見をいただきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願い致します。

(産業振興課長) ありがとうございます。引き続きまして、協議の方に行きたいと思います。

## ○議事

### (1) 今年度の部会の協議事項の決定について

(産業振興課長) さっきもお話しましたが、今年度の部会の協議事項の決定ということについてです。概要はさきほど少しお話しましたが、今年4月27日に百人委員会の代表者会議を行いました。その際、それぞれの部会において、今年度の部会の内容や進め方について、どうしたらいいかということで話し合いました。今日は第1回部会なんですけど、今年度の話し合いのテーマを決めていただくと。今年度できれば町長への提言まで持っていくテーマを決定したい。内容的には、自分たちでできること、みんなでできること、行政ができること、それらに関わったと言いますか、そういうふうな感じのテーマを決めていただきたいということです。第2回部会の方の内容につきましては、後ほど説明がありますけれども、とりあえずは今年度の部会のテーマということでご意見をお願いしたいと思ってました。代表者会議の方でも担当の課長から提言を提案して、それも含めて皆様のご意見をお伺いしながらテーマを決めようということで、すごいごと部会といえますのは、会長さんもそうですけども私も難しいなと思ってました、テーマを決めるためには。

私なりに書いた2枚ものが皆様のお手元にあると思いますけども、「今年度考えていく(提言までもっていく)テーマについて」ということで、自分たちでできること、みんなでできること、行政ができること、それらはなんなのかということで、私なりに考えた仮定のテーマなんですけども、「若者のしごと」というのをテーマにしてはどうかなと考えました。読み上げますけども、人口減少、少子高齢化とは言うものの、これからの町を作っていく者はやはり若者であることには変わりがないと思われれます。現実的に、軽米町で仕事をする場合と、町内に住居をかまえ町外で仕事をする場合に大きく分けられると考えます。もちろん本人の考え方あるいは職業の内容等で、町外に出て(町外に住んで)働く人もいます。仕事の内容は多岐にわたるわけなんですけども、①としまして、町内で仕事をする場合、農業(農業、林業、畜産業、園芸・工芸作物等)、建設業(一般建設業、電気工事業、機械設備業等)、建築業、企業(会社、地場産業、誘致企業、食品加工処理会社等)、医療福祉関連事業、商工業、飲食業、サービス業と大きく分けるとこういう感じになるのかなと思ってました。②としましては、町内で仕事をする場合、それから町外で仕事をする場合、仕事の内容は①でお話した内容になると思

います。あるいは町外で話をする場合には、専門的あるいは別の分野の仕事もあると思われます。ということで書いてあります。

一番重要なことは、仕事をする目的を明確に本人が自覚し、計画を立ててそれに向かっていく努力が必要ではないかなということ、以前のしごと部会の会議の際もお話がありましたけども、本人のやる気が一番重要だよということを話し合いましたので、やはりそういうことじゃないかなと思って書いております。

2番ですけども、生涯現役でということ、仕事をする場合、一般の会社ですと定年ということになりますけれども、農業には定年がないと言えば失礼ですけど、定年はありません。ですから、自分たちで今まで生きてきて経験してきたこと、あるいは今までの会社、事業所等で働いての知識、あるいはいろんな技術等があった場合に、それを自分なりに社会へ参加できるのではないかな。あくまでも生涯現役で、皆さん頑張りましょうよということを書きました。1枚めくってください。

2枚目になりますけども、3としまして、自分たちでできること、みんなですることって何なのかなということ、考えましたけども、農業の方の話になりますけども、最近、農業部門においても若い後継者が育成されている状況が見られます。農業においても、農作物・畜産物等によって、ある程度の売り上げが維持できる農家があります。今まで各種設備投資等など大変な苦労があり、ある程度の規模拡大に取り組んできた結果であると思っています。ある程度の収入が確保できるのであれば、後継者も育つのではないかなと感じております。今までの慣習にとらわれず、新しい技術・機械の導入、同時に経営力の勉強など、責任を持たせ、チャレンジをさせてやる。理想ではあるけれど、そのような若い農業後継者の育成も、自分たちで・みんなで行わなければならないことと感じています。これから、農地を維持することが困難な農家（兼業農家を含む）が多くなることが予想されます。地域の営農組織を自分たちで作り上げ、地域をみんなで守っていく姿勢が重要になると思われます。今まで地域を守ってきた先人たちに思いを寄せ、現在の自分たちの知識を活かし、地域の若者へバトンタッチし、新たな形態の地域営農組織の立ち上げについて、自分たち、地域みんなで話し合いをすることが必要ではないかなと。農業を中心に考えましたけれども、基本的な考え方は各職業とも同じなのではないかと思っています。

4番目ですけども、行政ができることということで、地域農業施策については、適用になる各種補助制度については、情報収集し提供いたします。町長の施策にもあります新規雇用については、町長自ら各種事業者等に対して要望しております。事業者の誘致及び新規就職場所の確保を確実に推進して

いただきたいと思います。「しごと」について、行政サイドでは創造はできませんが、その雇用機会創造のお手伝いはできる範囲でいたします。以上、私からテーマの決定のための1つの仮定のテーマということで、若者の仕事なんですけども、それについてしごと部会の考え方として、ここに書いてあるようなことと言うと失礼ですけども、私なりに考えたことを書いてみました。あとは部会長さんにお任せして皆さんからご意見をいただいて、何をテーマにしたらいいのか忌憚のないご意見をいただきたいと思います。部会長さんよろしく申し上げます。

(部会長) 課長さんから話がありましたけども、我々もテーマを何にするか、なかなかうまくいきませんので、本来第1回的时候に話がありましたけども、町内の人口が減ってるということで、あと何十年後にはどれだけののを見せられたと思いますけども、減少に歯止めをかけるというのは無理ですけども、できるだけ抑えていくということを考えると、若者ということで考えたいというのもありましたので、しごと部会としては、これについて考えていくということは皆さんどう思いますか。何に決定するかというのなかなか難しいので、まずこれに向けて考えて、それに沿ったものを考えていけば楽なのかなとは思いますが、どうでしょうか。今いろいろ説明していただきましたけども、内容は当たり前のことなので、このとおりだと思いますけども、皆さんがタッチしてる部分で話をさせていただければありがたいと思います。1番若い人、自分が直面してる部分ですけどどう思いますか。

(委員1) 若者のしごとについてということですけど、それは考えていかなきゃならないことなのでいいと思います。

(部会長) 若い人がいいと言うのであれば、これで決定して進めていってもよろしいでしょうか。

(委員) はい。

(産業振興課長) 皆さんから意見聞いてもらってもいいですし。(委員2) から何かありませんか。

(委員2) 若者のテーマはいいんですけども、若者の前に、今いる人たちが自分たちが何をすべきかを考えて、それに若者が反応してきたときに、どうやって応援するかということだと思っんです。意識とかあれとっていうこともですが、魅力があると、これやりたいあれやりたいっていう選択肢はできると思っんですけども、こっちからこういうのあるよああいうのあるよと言っても、たぶん若者はついてこないのかなと思っので、今いる人たちが魅力ある軽米のしごとを見せてあげる。それについて若者が意見を述べてくると思っんですけど、そのときにどれだけいる人たちが反応して、

若い人たちはこういう意見があるから、じゃあこれから私たちがどうしていくかということが、たぶん今までそこまではそんなに考えていないのかなという感じがしてました。若者のしごとというテーマはいいと思うんですけど、これからの問題の方が大事なのかなって感じますので、テーマはこれでいいと思います。

(部会長) それでは、**テーマは「若者のしごと」**ということで進めてまいりたいと思います。今(委員2)が発言されたように、若者を残すためには何をやるかということが我々に課せられていると考えますので…。

(産業振興課長) 私からちょっと補足ですけど、今(委員2)がおっしゃったようなことを、3番で、自分たちでできること、みんなでできること、気持ち(委員2)と同じですけども、要するに、若者はいるんだけども、若者が本当に自分で考えてやれるようなもの、強制的にやるんじゃないで、少しずつでもいいから手伝っていただいて、やれるような雰囲気私たちが作らなきゃだめじゃないかなと思ってます。それがどういうふうにしたらいいかということは、次の部会で話をしなければならぬと思いますし、委員の皆さんからもご意見をいただいてやらないといけないと思います。もしよければ、皆さんから忌憚ない意見をいただいて、今回はテーマをとりあえず決めていただいて、次の部会で内容について、今(委員2)がおっしゃいましたようなことも含めまして、具体的にどうしたらいいのか、次の会まで少し時間をいただいて、皆さんからまたご意見をお伺いしながら、強制的にまとめるということではありませぬので、こう考えるよということを町長に進達して、若者がやるべきこと、自分たちがやるべきこと、行政がやれるもの・やっていただきたいものという感じで、分けて考えていけばいいのかなと思ってました。

(部会長) 今の話の中におきましても、私が思うにこの農業部門というのは、確かに一時期よりは若者が定着しているような部分は見受けられるのかなと思ってます。あとその他の職業の方ではどうなんでしょう。建設業では若い人たちは入ってますか。

(委員3) うちには20代から70代まで幅広くいます。別にあれやれこれやれと言わなくても、行政の仕事がないから一般の仕事だけ探している状態でございますので、やっぱり行政に頼ってはいけませんという状況でございます、今の段階は、20代は3名ぐらいかな。あとは30代、40代、70代、75歳が一番の高齢者でございますけれども、元気よく働いてもらっております。ただ、いかに仕事を信用して確保するかが、私どもの会社でも考えておりますけれども、なかなか一般の方々についていけないという状況でございます。

(部会長) 今、(委員3) のところのお話でしたけれども、町内の建設業とかを見ればどうなのでしょう、全般的に。若者が入っているのでしょうか。全然わからないので。

(委員3) 若い人の見習いはほとんどいません。何名かはいるけども、訓練協会でもほとんど、二戸管内で4～5人、10人不足です。左官、建築設計、板金、あとコンピューター関係が今けっこう訓練生が入ってますけども、ほとんど仕事の部分は見習いはほとんどないようです。どうやってお客様の信用をとるかが課題でございしますが、我々は町内はたかがしれたもので、町外、八戸、階上、種市、ほとんど県外が80%でございしますので、かろうじて今のところは生き延びているわけでございます。

(部会長) はい、ありがとうございます。同じ分野ですけども、(委員4) から見て仕事量から見てやっぱり少ないのでしょうか。

(委員4) 前回も言ったんですけど、波があるというか安定しない。基本的にこの仕事を好きだという人は多いんですけども。学校も出てる、仕事をしたいという人はいるんですが、どうしても仕事の波があるし残業もある。辞めていく人が約8割です。

(部会長) それを解決するには、仕事がコンスタントに入ってこななきゃならないというのが一番の問題になるでしょ。

(委員4) でしょうかね。いいところをもっとアピールすればいいんでしょうけどね。

(部会長) これはまたこれから話し合っていく内容の1つとして考えていきたいと思います。あと(委員2) から何か。

(委員2) 仕事っていう部分で言いますと、軽米町にはけっこういろんな形があると思うんですが、地元の人って、なかなか地元のことをよく知らない部分があって、どういうふうな流れを作っていくかというのを、前から流れがあったのがどっかで途切れているような感じがしているんですよ。軽米町にはいろんな、磨けばけっこういいものが地元の中にもあると思うんですけども、私もどれっていうわけにもいきませんが、その中でちょっとよその地域を見たときに、全く関係ない人が応援隊というような形でよそから2～3名呼んで、軽米町全体を見て、軽米町ってこんなにいいところがあるのになんていう捉え方の中でやる方法とかも、久慈とか二戸とかもやってますよね。私たちが見た以上に、こんなにいいところをなんで軽米の人はやらないの、っていう部分もあるかと思うので、そういう切り崩しとか発展のしかたとかっていうのも、仕事の一つを発見するための方法としてあるのではないかなと。それはやっぱり何気ない仕事として私たちはしてるんですけども、魅力あること、若者がこういうのし

たいというのは、私たちがやるよりもあるかなと思います。あと、中学校、高校生も意見がいろいろあると思うんです。軽米にはこんな魅力があるし、こんなことをやっているのについていう意見とかも聴いて、私たちの角度と違った部分を考えてやるっていうことも、小さい子どもは、軽米町こんないいところがあるのについて発見する目があると思うので、そういった意見も、どんなところがいいのかわからないですけど、中学生とか高校生の会とかとお話をするとか、軽米町にはこういった仕事があったほうがいいよ、というのを聞き出すテーマとかがあってやるという形で、私たちもそこから勉強するという方法もあるのかなと。どうしてもこっちからの目線とよそからの目線と違う部分があると思うので、そこらへんも考えていければ、ここだけで考えてるよりは目線がついてくるかなって感じました。

(部会長) そうですね。我々は軽米に住んで軽米から離れたことがないから、自分たちの町の良さっていうのは全然わからない。よその人から見てもらうのも一つの手だし、あるものを使って伸ばしていければ。前から仕事といえば誘致企業がつって言っても、何十年も昔から誘致企業と言ってきましたけども、なかなかこれがないのですからね、あればとっくの昔に解決されてるわけですけど、なかなかこれが進むものでもないし、どちらかと言えば、自分たちで大きくやっていくことの方が発展するのかなということを考えておりましたけども。なんかやっぱりそういうところを見出せる方法というのを考えてみますか。そういうことでどういう方法にするのか。生徒たちへのアンケートとかそういうのはできないのか。

(産業振興課長) いいと思いますよ。皆さんまた次の部会で話し合ってもらって、実際のキャリアアップということで姫ヶ森牧場にも行ってるんですけども、中学2年生ですか、研修に行きます、1週間程度。あとから報告書とかを見ると、こういうことが軽米にあるのかとか、こういうふうな仕事もあるんだって、この仕事がこういうふうなつらいことって言えば失礼ですけども、同じことを続けながら一つの作業をやってるんだなという感想も見れば、わかっているつもりでわかっていなかったことが、子どもたちの目線でまた出てくるというのも現実的にありますので、そのへんもいいんじゃないのかなと思います。あと以前に会長さんがおっしゃいましたけども、産直施設、軽米に今ミルみるとどんどんとノーソンをあるわけなんですけども、この中で、生涯現役でと考えたんですけども、私もそうですけども買い物に行って初めて、あら、ここにもあるんだという感じで気づく野菜なり漬物なり、それから旬のものがあります。牛乳なんかもありますけども、自分たちの町で生産してるもの、あるいは販売されているものが目の前にあるという現実も、私もそこに行って初めて気がつくこともあ

るわけですが、それを広げていって、自分たちで生産したものを自分たちで消費できないのか。売れば売れるほど、作っていただく生産者の方々にもフィードバックできるのではないかなと。それがすごくいいんじゃないかなと思いますけども、集客するためには施設のいろんな整備とかも必要でしょうけども、楽しみとして、作る楽しみと売る楽しみと買う楽しみがあそこには少しあるのではないかなと思って考えてました。それらを本来は大きくやればいいわけですが、少子高齢化、農業者不足、産直施設でも販売する品物を作ってくれる人が少なくなっているというのも現実にございます。ただそれを、若者ではないんですけども、まあ若者でもいいんですけども、お年を召されたと言え失礼ですけども、楽しみで作っていただいて、それが年金のほかに少しおまけが入るとなれば、楽しみもできるし、自分で作ったものを商品として陳列して、それをお客様から買ってもらうというのを自分で見ることができれば、それはすごい楽しみじゃないかなと思います。そういうのを増やしていく、もしくは、品切れとかいろんな商品があると思いますけども、それらも研究しながら、少しずつでもお客様のリピーターを増やしていき、あるいは新規のお客様も増やしていき、それから子どもたちもけっこう連れて行けば、興味を持って見てますので、そのへんがもっと大きくできないのかなと。この立場でこういうことを話すのはよくないですけども、前に部会長さんがそういうことを話してましたので、すごくいいことでないかなと思ってました。規格物を農協さんで出荷するのであれば、規格外であればそれを調理とか一次加工、細かく刻むとかそういうのもいいんじゃないかなと思うし、漬物とか一夜漬けとかそういうのもいいのかなと。作る人の喜びと買う人の喜び、それをいかにしてやるかというのはすごく問題があると思いますけども、それも一つのこの中で生きていくために今までもやってきたし、これからも広げていくためには必要なのかなと。季節ものであれば、花卉、花ですね、いろんな花もありますし、少し安く出させていただくとか、規格外でも、規格外と言ってもまず正直な話、我々からすれば使えるものがいっぱいあると思いますので、それらをうまく販売できればいいのかなと。秋になれば果物ができてきます。冬になれば何か、春夏秋冬何かあれば、一つの目玉になるのかなと思ったりもして。この前部会長さんが一番最初のときお話しして、すごくいいなと思って考えてましたけども、それらも一つのことではないかなと思ってました。農業関係だけ話して申し訳ないんですけども、農家でなくても少しの立地があればできる作物もありますので、そのへんも楽しみとしてできるのであれば、それも一つの仕事なのかなというふうに考えたりもしてました。いらぬことを喋



ってすみません。

(部会長) 私ちょっとこのまま乗っけていいのかわかりませんが、今町内にソーラーがどんどん建設されるわけですが、草刈りとかそういうのはどういうふうになるかわかっていますか？誰がどういうふうに依頼されるような形になるのか。

(産業振興課長) たまたま担当者がおりますので担当者の方から。今の話が本当かどうかというのは企業の考え方ですから、それはそっちに置いておいて。

(再エネ推進室長) 皆さん、おぼんでございます。再生可能エネルギー推進室の平と申します。今メガソーラーということでお話いただきましたけれども、再生可能エネルギー推進室は、今お話のあった太陽光、それからバイオマス発電、それ以外にも企業誘致の方を進めさせていただいております。メガソーラーの方なんですけど、皆さんもご存じのとおり、メガソーラー自体は常用の雇用者というのはほとんど生まれませんが、電気管理とかそういう基本的な技術者、例えば山内、今折爪サービスエリアの西側、それから東側の方で2面ぐらい。それで規模の方、この間4月の27日に起工式を事業者の方でやらせてもらったわけなんですけど、そこが面積的に150haなんですけど、その場合、事業者から聞いた内容なんですけど、草刈り的な部分につきましては、季節的な部分あるんですけど、10名ぐらいで年2回か3回、延べにすると、日数をかけない延べなんですけど、それで30名かそこらへんになるかと思うんですけど、それ以外にも、東ソーラーなりフォリストパークの方の尊坊とか高家の方にもやっていますので、とにかくその季節的な部分は、軽米の方、いろんな建設事業者さん、それからシルバーさんとかを使ってお願いしていくと思うんですけど、今明確な人数はあれなんですけど、大規模な雇用といいますか、季節的には生まれると考えております。今草刈りとかあったわけなんですけど、それ以外にも、例えば太陽光のパネルの清掃、それから冬場の除雪関係とか、そういう部分でも雇用は生まれるんじゃないかと考えております。

(部会長) はい、わかりました。じゃあまず町外の業者に頼むというよりは、町内に頼むような形をとられるということなんですか。

(再エネ推進室長) 町としましては、雇用的な部分なんですけど、軽米の方々に、地元の方を雇用してやっていただくというのを基本的にはお願いしております。事業者は東京の事業者なんですけど、いずれ地域の活性化ということで地域づくりを進めておりますので、雇用の面のほかにも商工さんと相談しながら、東京の事業者が入ってくるわけなんですけど、言葉は悪いんですが地方から搾取、利益を持ってくるとはならず、大手のゼネコ

ンさんが入ります。その下にまた建設が入るんですけども、その下の方になるんですが、軽米には建友会さんがありますので、建友会さんを最優先に使っていただく。それ以外にもいろいろ波及する、町の商店街を最優先で使っていただく。簡単に言うと弁当とかいろんな資材とか、雇用それからそういう面も含めて、地域の方を基本的に使っていただく。そういうふうに事業者をお願いしております。

(部会長) ということは確実に雇用は生まれるということですね。先ほど建設関係でも話を聞いたんですけども、仕事がないようなばらつきがあるのであれば、そっちの方にも仕事が回るような形をとれるということなんでしょうか。

(再エネ推進室長) 町としましては、とにかく軽米にお金が落ちるようなことということで、最優先に建設の事業者さん、それから商店街さん、とにかく地元軽米を優先ということで、今検討しているのはそのところを事業者さんと協議しながら進めさせていただきます。余談なんですけども、事業者さんと商店街の店主さん単体ではなく、商工会さんを窓口的な部分でお願いしながら、商工会さんを通していろいろ手配していただく。いろんな皆さん方に全部の事業者さんにお声掛けできるように、やらせていただきたいということで進めております。

(部会長) はい、ありがとうございます。まず先行きが明るい話なので、しごと部会としてはちょっと見えてきた部分もありますので、それをあてにして今後話し合いをしていきたいと思えます。

(委員2) すいません、1ついいですか。広範囲にわたると思うんですけども、一般企業がけっこう軽米町にあるわけですけども、今後若者を確保していくために、どういうふうな工夫をしてるかというのもアンケートで企業とかからもらえないものでしょうか。どういう考えで若い人たちを使っているかというのも参考になるかと思うんですけども、使う側の人たちが、若い人たちをどうやって確保してどうやって育てていくかというのも、もしアンケートの中でとれる範囲内でわかったら、そこにもこういう形がついてというのが生み出せるのではないかなと思ったので。急がないので、徐々にそういう使う側の意識も考えながらやっていったらどうかなと思いました。

(部会長) アンケートっていうのは事業者からアンケートをとれないかという。それこそ商工会とかを通じてとればいいんじゃないですか。

(産業振興課長) アンケートにつきましては先ほどもありましたけども、学生さんとか生徒さんとか、それから今お話を聞いていてそうだなと思ったんですけども、使う側の状況を聞いてみないとだめだなと、そのとおりだな

と思いますので、それらのアンケートをとっていただくように提言をするという考え方で、私たちがやるということではなくて、しごと部会ではこういうふうに考えましたから、アンケートをとってみてこれからの参考にしてみてもどうかということ、提言の内容として取り組んでいきたいと思えますけれどもよろしいでしょうか。

(部会長) それではできる限りの機会があったら、アンケートというか情報を集めるという考え方で動いていければと思います。あと何かございませんか、テーマに関すること。(委員5) はいかがでしょうか。

(委員5) 先ほど、ノーソンとかそういう話が出ましたけれども、ノーソンは10日に1回市日のときだけなんですよね。農家で市場に出す野菜とかの規格外のもの、そういうのを朝市で週に2回ぐらい、仲町の物産館のところかその辺にでもいかがなものでしょうか。

(部会長) あれは軽トラ市…

(産業振興課長) ではなくて担い手生き生きクラブですね。物産館の方で去年からテントを張って、週2回って聞いてましたけども、朝市をやってるそうです。今おっしゃったように、いいものもあるんですけども規格外のもの。トウモロコシであれば茹でて販売してるそうです。去年やってみて良かったなということで、専用のテントを買ってそこで今年も続けてやりたいなという話は聞いております。売ってる人も買ってくれる人も増えているという話はお伺いしておりました。

(委員5) それは生き生きが主体になってますでしょ。あの人たちのはちょっとなんですよね。ですから、もう少し農家の人たちにも広く話をかけて、できればもう少し長くそういうものを出せるようにした方が、せっかくやるのでしたら。

(産業振興課長) すごくいい意見だと思います。私の方からはそれしか言えないですけども、それも1つの考え方だと思っております。ぜひそうなればいいなと思ってました。

(部会長) そういうのは役場で募るといようなことはできないものなんではないか。

(産業振興課長) 産直でもそうですし朝市でもそうですし、お手伝いはできると思いますけども、やはり主体ですね、活動主体、どこが中心になってやるんだと。いろんな手続き等もございますので、それらがどのようになるかというようなお手伝いはできると思いますけども、活動主体とその運営方法、一番の問題は場所になりますけども、場所が確保できるのか、運営主体がどうなのか、それを維持していくためにはどうしたらいいのか、ということをおある程度計画を立て継続していかないと。例えば八戸であれば、

港の朝市がありますけども、あれは商工課のバックだと思いますけども、運営主体のなんといいですか、データみたいな感じですね、それを決めることが大事だと思いますし、一番の問題は場所ですけども、場所と主催者、参加者、それらのお手伝いはできると思います。役所ではそれはできませんけども、お手伝いはいくらでもできると思いますので、相談があれば、やれるかどうかわかりませんが、一緒にやっていかなければだめなのかなと思います。ただし、我々とすればやれる範囲とやれない範囲がございますので、ご理解のほどお願いしたいと思います。

(部会長) (委員6) からご意見を伺っておりませんので、何かございませんか。

(委員6) 先ほど、中学2年生になると軽米町では、どんなことをさっきお話してましたか。どんなことをやってるんですか。

(産業振興課長) 町内の事業所さん、30 ぐらいあったと思うんですけども、役場もそうですけども、松橋商店さん、田中さんのところの牧場もそうですけども、それから一般商店もありますし、大黒醤油さんもかな、いずれ町内の商工会の会員の方々といいですか、そのメンバーの方々に教育委員会でお声掛けしてアポを取りまして、1 週間ほど中学校2年生の教育のカリキュラムの中に組み込んでいただいて、事前に問い合わせをして申し込みをしてやってます。せんべい屋さんもあるしガソリンスタンドもあるし、ふれあいセンターとか保育所なんかもありますし、毎年やってますけども、そういうふうな事業内容になってます。

(委員6) 要するに職場体験ですか。

(産業振興課長) そうです。名前がちょっと違うんですけども、早い話が職場体験です。

(委員6) 職場体験もどうかなと思ったんですが、じゃあいいです。

(産業振興課長) そうすると、「**若者のしごと**」というテーマでよろしいでしょうか。次の会の話し合いになりますけども、今日もかなり皆さんからご意見をお伺いしたので、それをまとめればある程度できるかなと思いますけども、次の部会もありますので、そのときにまたこのテーマについてそれぞれの立場からお話をもらえればいいのかと思います。

それでは、(2) の第2回部会の進め方と開催日時の方に移ってよろしいでしょうか。百人委員会の年間スケジュール表、総務課の小笠原主事から聞きましたけども、5月の末から6月の頭にかけて、5つの部会があるんですけども、それぞれこのような話し合いをしてテーマを決めていただくと。2回目は8月の下旬から9月の頭にかけて、土曜日か日曜にあたり、研修会をして講師先生を呼んでお話を聞いて、その後に各部会をやってしまいたいという予定になっております。詳細については、これからそれ

ぞれの部会がありますのでそれらとの調整になると思いますし、講師先生の日程等もございますのでその関係になるかと思えますけども、次回開催については、午前中になるか午後だけになるかまだわかりませんが、研修会をしていただいた後にお時間をいただいて部会を開催して、土曜日か日曜日の休みの日になるかと思えますけども、ぜひお願いしたいなという考え方で日程を考えています。具体的な日程についてはまだついていませんけども、内容的にはそのような考え方で進めたいと聞いてましたので。土日の午後とかがって問題ないでしょうか。よろしいようですので、土曜日か日曜日の午後ということで、日程は総務課で全体の部会と調整しながら、全体で研修会ですよね。補足説明を総務課から。

(小笠原主事) 研修会と第2回部会、8月末から9月の頭のあたりを期日としては予定してました。研修会、講演会につきましては、全5部会、他の部会の皆さんと一緒に聞いていただく、それぞれの部会についてというよりは、百人委員会という会の全体に通じるもの、会議の進め方とかあり方というところで、どなたか先生を呼んでお話をしていただければなと考えてました。他の部会の皆さんも一人でも多く集まれるタイミングってなると、やっぱり平日よりは土日なのかなというのが案として持ってたところでした。土日に集まっていただけなのであれば、このスケジュールを見ていただいとおりなんですけど、部会だけでも年3回行いたいと。3回目で提言の方向性といいますか提言をまとめて、最後に全体会ということで皆さんにまた報告の場ということで、会議だけでもまず4回はということで、さらに研修会を別の日になってなると、集まっていたくのも大変なのではないかなというところもあって、研修会と第2回部会を同日でできれば集まりやすいのかなというところが考えとしてはあったので、同じ日に研修会と部会を開催するというのでいいのか、やっぱりこの部会が集まれるのは平日とか夜だろうということであれば、平日の夜でも可能だと思うので、研修会については土日の開催にはなるかと思えます。ただ第2回部会を同じ日にやってしまうのか、研修会とはまた別に、この部会の委員さんが集まりやすいタイミングがいいのかというのをご相談いただければと思います。

(産業振興課長) 皆さんからご意見をお願いします。

(部会長) 今説明がありましたけども、第2回部会ということでまず、研修会を開きたいということで計画するというので代表者会議のときに話し合いがありましたけども、研修会の日と第2回部会、同日にやるということはどうでしょうか。何回も集まるよりは出たときに…これは部会ごとに分かれての話になるんだよね。

(小笠原主事) そうですね、研修会は皆さん一緒に聞いてもらうんですけど、

その後はそれぞれの部会に分かれて。

(部会長) ということですので皆さん、**第2回部会は研修会当日**ということでお願ひしたいと思ひます、ということでお決定させていただきます。

(産業振興課長) 大変ありがとうございました。本日のメニューは終わりましたので、その他で皆さん何かあれば。

(委員1) しごと部会ということなので、初めて来たのでわからないんですけど、皆さんの仕事を書いてあればいいなと思ったんですよね。今から自己紹介するのも時間がないし、次回ここに仕事も書いてあれば。

(産業振興課長) 皆さん、職業を書いてよろしいでしょうか。私の方ではおさえてましたけれども、公表はしてなかったんですけども。では職業も参考までにとということ、皆さんからご了解いただきましたので、次回からは載せさせていただきますと思ひます。もしその際に反発があれば話してもらえれば名前は変えますのでよろしくお願ひします。何もなければ終わりにさせていただきますと思ひます。

(部会長) それではこれもちまして、第1回しごと部会の会議を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。